

平成 26 年度卒業研究発表会要旨集の巻頭にあたって

阿保 賢二（筑波大学 生物学類 4 年）

寒さも増してくるこの時期、秋学期の試験が終わると、ついに卒業研究発表会の時期になったと実感します。

毎年この時期に開催される生物学類卒業研究発表会は4年生が1年間かけて行ってきた研究の成果を発表する場であります。この1年間の集大成、もっと言えば学類生としての4年間の集大成であるとも言えるでしょう。12分、質疑応答を合わせても計15分という短い時間に込めた思いとして、一人一人の発表に耳を傾けていただけたら幸いです。

去年は運営する側、2年生、1年生のときは発表を聞く側としてこの発表会に関わってきましたが今年はいよいよ発表する側での参加となり、いよいよ自分たちの番だ、と気合いが入る一方で、先輩たちのような発表が自分にできるのだろうか、という不安な気持ちもあります。実際、実験で良い結果が出ないこともあり、なかなか上手くいかない、というのが現状でした。それでも自分たちが先輩の発表を見て感じたようなことを後輩たちに残したい、そして何より自分たちにとって次のステップへと繋がるような発表にしたい、そういう思いを胸に発表に臨みます。

1、2年生の皆さんには難しい内容かもしれませんが、いろいろな分野の発表を見たり、もしくは興味のある分野に絞って見たり

していただき、今回の発表会を来年もしくは再来年の研究室選択の際に役立てて欲しいと思います。また、発表を聞くだけでなく、先生方も皆さんと一緒に聞き、質問するという普段の講義とは違う発表の場の空気というものも味わって下さい。

3年生の皆さんにはこの卒業研究発表会を準備・運営していただき、心から感謝しています。自分たちの姿を見て来年の発表の参考にしていただければと思います。また、このように1年間卒業研究ができたのは、自分たちを指導し面倒を見てくださった指導教官のおかげであることはいまでもありません。改めて感謝の意を表するとともに、発表会本番ではどうか温かく見守って下さい。

最後になりますが、自分たちは4年間、多くの人と関わってきました。それは同じクラスの学生、学類の先輩や後輩、受講した講義の先生、研究室の先生や先輩等挙げればきりがありません。研究室に所属し卒業研究をして発表し卒業するという、今まで当たり前になっていた、やろうとしている状況はこの関わりがあった初めて成立します。この人との関わりを大切に、また感謝の気持ちも忘れず、これからの人生に繋げていく所存です。

Communicated by Kenji Miura, Received January 8, 2015.